

JAF地方創生プロジェクト

このプロジェクトでは、地域の交通安全の普及と地域の創成を目的としたプロジェクトです。私たち大学生が、交通事故を無くすためには、どのような取り組みができるのかを考えて、JAF三重支部の方々のお力を借りながら行動して行きます。どのような活動を行うのかを自分たちで考えてできるプロジェクトとなっています。

TEAM DATA

メンバー数：5名
活動場所：津市
実施主体：一般社団法人日本自動車連盟
三重支部
担当教員：笠原正嗣（現代日本社会学部）
活動年度：R02, R03



月別活動

(6月) 活動会議



(8月) 活動会議決定

(9月) オンライン会議 動画撮影概要

(11月) 動画撮影



1年の活動まとめ・考察（成果と課題）

今年度の活動は交通安全普及動画の作成を行いました。活動に参加している学生6人が、普段自動車を運転する際に、わからないところや、気がついた方がよいと思う点を題材に動画作成を行いました。

まずは、簡単なメンテナンス動画を作りました。私たちが普段から行う必要のある日常点検の動画を作成しました。ボンネットの開け方から、ウォッシュ液の確認に加え、エンジンオイルのチェックなど、簡単な作業ではありますが、安全に日常運転を行う際に必要な確認項目を厳選し動画を撮影しました。

ふたつ目は、運転の際に注意すべき事を撮影しました。バックミラーの合わせ方と、バック駐車のコツの動画です。バックミラーは、人それぞれ正しい位置が異なるため、調整の仕方から、位置を示す工程を挙げました。それに加えて、苦手な人が多いバック駐車でした。見る位置と正しい順序で誰でも簡単に行えます。

この2つの動画を、私たち学生が調べ撮影を行いました。動画は現在、編集作業中ですが、JAF三重支部の方のお知恵を借りながら、私たち自身も車の知識が付き、成長できた活動でした。

活動を通して学んだこと

活動を通じて学んだことは、自動車は身近なものであるということでした。大学生になり自動車を運転するようになり、行動範囲が広がりました。しかしながら、安全にドライブを楽しむには、運転中だけでなく、運転する前の事前の点検であったり、確認が必要であることを知りました。JAFの出動件数の多くは、未然に防げるものがほとんどでした。タイヤの空気圧であったり、オイルの確認が挙げられます。学生の多くは確認をしたことなく、実際に私たちの活動メンバーも確認した事がない人がほとんどでした。これから先、自動車とは付き合っていくことは必要不可欠と思うので、私たちにとっても良い経験になったと思います。安全運転を多くの人にしてもらおう事で、交通事故を減らしていけるのではないかと考えます。

実施主体からのコメント

一般社団法人日本自動車連盟三重支部
ご担当者様

学生自ら危険箇所の選定をおこない、提案書作成及び現地調査をおこないました。現地調査時には、どのようにすれば現在の状況を改善できるかなどを熱心に意見交換をおこない、調査をしていたのが印象に残っています。

また動画撮影については見てもらう方に、どのようにすれば分かりやすく伝わるのかをメンバーで考え台本作成・撮影に必要な機材等の準備をおこなっていました。撮影当日には自分たちで工夫してカンペを作成するなど事前準備もしっかりおこなっていました。今回の活動を通して交通安全・クルマに対する関心を深めていただければと思います。

担当教員より

現代日本社会学部 笠原 正嗣

2年目ですが具体的な活動開始は本年度からなので、実質1年目といえるものでした。交通安全推進による地方創生という今までに無いCLL活動のアプローチで、試行錯誤の中での取り組みでした。「若者のクルマ離れ」が叫ばれる昨今ですが、メンバー全員「クルマ好き」で、自動車交通を研究テーマとする私も楽しく活動できました。

春には交通危険箇所の現地調査結果を伊勢市に報告し、秋には学生目線による安全運転実施のポイント動画の撮影など、コロナ禍による活動制限があるにもかかわらず実践的な活動が実施できたと思います。三重県はクルマ利用の比率が高く、運転マナー向上等の交通安全活動は重要事項となります。若者視点による活動の進展を期待したいと思います。



成果物 / 制作物



改善提案回答